

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ひとみかがやく日本一の子供を育てるために必要な施策の答えは、子供たちが持っていると思います。そのことを伝えて、私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。再開を15分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、アフターコロナを見据えた糸魚川のまちづくりの展開について。

2020年1月15日に国内で初めて新型コロナウイルスが確認され、3年の月日が経過しました。このパンデミックによる未曾有の経済停滞で、本市においても大きく影響を受けております。

本市が今後も存続していくためには、キャッシュアウトをできるだけ少なくし、地域住民所得の向上を意識することが大切であると考えます。それには地域での得意な分野で所得を稼ぐことはもとより、コロナ禍を契機に「地域外への支出」を見直すことであると考えます。

(1) 交流人口・関係人口の拡大について。

① 市が考える他市町村との持続可能な交流・連携の在り方について伺います。

② コロナ禍になり、ますます人気が高まったアウトドア。キャンプブームが続いていますが、市が後援する「山や海を生かした取組」について伺います。

③ 令和5年度、商工観光課が力を入れて取り組む事業について伺います。

(2) 市内まちづくり団体・事業所存続に向けた取組について。

- ① 市内のまちづくり団体が開催するイベントにおいて、市職員も積極的に参加していただいておりますが、このコロナ禍で市内イベントにどのような影響が出ていると感じているか伺います。
- ② 市内事業所の廃業や倒産防止の対策について。多くの業種で借入過多の状況にあり、コロナ融資の返済が無事に進むか不透明と言えます。多くの経営者が厳しい経営状況を他人に話せずに悩まれていると考えますが、このような状況を市は捉えているか伺います。
- ③ アフターコロナにおける「地域経済活性化」に向けた市の取組について伺います。市の単独事業での大きな財政出動は難しいと考えますが、地域経済活性化と地域住民所得の向上を実現するために必要な策は何か伺います。

2、駅北のまちづくりの将来展望について。

(1) アスベスト含有建物の解体について。

- ① 市が所有する「旧東北電力ビル」は、現段階では解体される予定ではありますが、解体工事における懸念事項について伺います。
- ② 市が所有する「宮田ビル」は、今後、費用をかけてリノベーションをして活用するのか、解体するのか、現段階の方針について伺います。
- ③ 旧東北電力ビルや宮田ビルを解体するとした場合、物価の高騰等を踏まえて計画する必要があると考えます。軽微な追加予算や、過大な追加予算が発生するケースが考えられますが、その際の議会への報告はどのように行うのか伺います。

(2) (仮称) 駅北子育て支援複合施設設置と「にぎわい」の関連性について。

- ① 市が考える駅北復興まちづくりにおけるにぎわいとは何か。(仮称) 駅北子育て支援複合施設が20年後、30年後に与えるであろう影響について、市が考える「仮説」を伺います。
- ② 駅北広場キターレにおいて、様々な活動から、現在もにぎわいを創出していますが、今後は(仮称) 駅北子育て支援複合施設との差別化をしっかりと図る必要があると考えますが、いかがですか。
- ③ (仮称) 駅北子育て支援複合施設が計画されるに当たり、実施設計までの期間で、地域や市民の皆様に「親しまれ愛され続ける施設の展望」がイメージできるか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、上越3市や北アルプス日本海広域観光連携会議など、近隣市町村と地域特性を生かした広域観光圏や商業圏の構築が必要であると考えております。

2つ目につきましては、マリンスポーツやキャンプ、登山、サイクリングなど、当市の自然と地形を生かしたアウトドアの誘客促進を図ってまいります。

3つ目につきましては、HAKUBA VALLEY及び上越、妙高との広域連携による交流・

関係人口の拡大、またヒスイの県石指定を契機とした誘客活動を展開してまいります。

2点目の1つ目につきましては、自粛傾向も見られていましたが、今後はアフターコロナに対応した方法で再開されるものと期待をいたしております。

2つ目につきましては、融資の返済や経営改善については、まずは商工会議所や商工会、金融機関にご相談いただきたいと考えております。

3つ目につきましては、企業の収益を拡大させるとともに、地域外へ流出しているお金を減らし、流入するお金を増やすことが必要であると考えております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、工事の安全性、周辺への配慮等が必要であると考えております。

2つ目につきましては、現段階では、解体する方向で考えております。

3つ目につきましては、予算の変更などが生じた際は、議会への報告を行い、進めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、復興まちづくり市民会議のにぎわいの定義を基に、新たに子育てや多世代交流の施設を加えることで、人や経済の動きが活発になることを想定いたしております。

2つ目につきましては、整備検討を進める中で、それぞれの機能と連携について整理をしております。

3つ目につきましては、地域や市民に親しまれる施設を目指し、進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは1番目の（1）①の持続可能な交流・連携の在り方について、再質問させていただきます。

糸魚川青年会議所の本年度の取組で、HAKUBA VALLEYを中心とした塩の道エリアでの関係人口拡大を促進する活動が見られます。その仕掛けの一環として、白馬岩岳マウンテンリゾート社の白馬村、小谷村、大町市、糸魚川市限定のウインターシーズン、グリーンシーズン共通のリゾート入場チケット割引制度はご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

ご質問の割引制度につきましては、市内にて、2月11日、土曜日にチラシの新聞折り込みのほうをされてることを承知しております。また、糸魚川タイムスにて、2月21日に記事が出ていることを確認しております。

この取組を、拝見いたしまして、白馬岩岳マウンテンリゾート社が、糸魚川市を同一のエリアと

して考えていただいたものであると思いますので、広域的な取組の1つのよい事例として、感謝と今後の事業展開の参考にさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

交流人口の拡大はもとより、糸魚川市が関係人口の拡大を目指すならば、白馬村、糸魚川市の双方がウィン・ウィンの関係になる必要があると思います。白馬岩岳マウンテンリゾート社は民間企業ですので、糸魚川市内の民間企業の双方で、双方のお客様に特典を享受できればよいと考えますが、糸魚川市と白馬村の双方で、このような取組ができないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

民間企業間での連携は、上手に双方が補完できることができれば、お互いに多大な利益を生むことが可能だと考えております。商売を行う方、観光客を含め、連携する地域への貢献など、三方よしとなる事業の創出が必要であると考えますことから、今回ご提言の白馬村との連携につきましては、民間企業の動向により、見いだしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

なかなか、もうすぐにもやりますという回答は頂けないとは思いますが、関わり方の一つとして、双方がホスピタリティーの気持ちでお客様を招き入れていただいて、その上でお互いにウィン・ウィンとなるような関係性を築いていただきたいと思います。

日本でも有数の観光地である白馬村、今以上に塩の道エリア内で交流を深めていただき、返報性の原理ではありませんが、双方が関係人口を増やすべく意識で、双方にとって有効で意味のある支出となるよう連携を図っていただきたいと思います。

それでは、②の市が後援する山や海を生かした取組について、再質問させていただきます。

屋外で楽しむレジャーは、コロナ禍によって加速してきた感がありますが、今後もアウトドアブームは継続すると考えます。糸魚川市で市民に限らず、市外の方々も楽しめる海を活用したレジャーについて、お考えはあるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

海を活用したレジャーにつきましては、以前から、海水浴、サーフィンをはじめ、カヤック、サップ、海岸でのイベント等、多様なアウトドアを楽しめることができる地域だと考えております。今ある既存のものをどのように魅力あるものにするか、先進的にブラッシュアップできるかに、今後、注力していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

糸魚川市にあるちょっと海の施設について、海の施設、公共施設に焦点を当てて、再質問させていただきます。

糸魚川市の観光スポットとしても注目の須沢オートキャンプ場の年間利用者数を伺いたいと思います。

今後、交流人口拡大の観点で、糸魚川市の観光スポットとして利用頻度が高まっている施設の周辺整備も今後意識するべきと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えします。

須沢臨海公園オートキャンプ場の令和4年度の年間利用者数は5,437人で、コロナ禍でのキャンプブーム、それから今年度からインターネット予約を始めたことなどから、利用者が増加しております。須沢海岸周辺は、海を活用した観光スポットと考えておりますので、今後、エリア全体の活用について再検討する必要があるのではないかと、そういうふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど5,437人という、この利用者数を聞いてちょっとびっくりしてるんですけども、また、次の可能性を見越して周辺整備を進めていただきたいと思います。

先般、須沢のドームを修繕されましたが、糸魚川市の観光ガイドの観光スポットのホームページを見る限り、オートキャンプ場を活用するお客様が須沢ドームも、いかにも自由に活用できるように見受けられますが、条例にある休憩所としての用途で、キャンプ場を利用する方々のドームの利用頻度が高まるとお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えします。

ドームなぎさは、屋根つきの休憩所施設として、新潟県が整備をいたしまして、市が維持管理を行っている施設で、公園を訪れる全ての利用者が利用いただける施設になっております。

しかし、周辺の利用価値を高めるために、使用方法の見直しも必要であると思っておりますので、どのような活用の仕方ができるのか、所管する新潟県とも協議して、対応を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

須沢ドームの活用についてでございます。学童野球の練習をするために、過去、冬期間に限り開放していただいた経緯がありましたが、現在の利活用について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えします。

現状の使用方法は、従前と変わっておりませんが、各種スポーツ団体、それから学校等、利用の申出があった場合は、施設を所管する新潟県とも協議をいたしまして、運用してまいりたいと、適当な利用の仕方について運用してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

以前、学童野球の練習に使わせていただきたいということでお声を頂きまして、申請していただければ使えるようにいたしますということで対応していただいたんですけども。須沢ドームの活用については、様々なアイデアやご意見を頂いております。あまりお金をかけず、少ない投資で活用の頻度は高まると考えておりますが、糸魚川市として、何か先立つ考えはあるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えします。

ドームなぎさの利活用方法につきましては、以前、阿部議員からも一般質問でイベントの実施のご提案を頂いたところでございます。引き続き、利用者や地域の方々など、様々な関係者のご意見・ご提言を伺う中で、利用価値を高める方策・方法を探ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願いたします。

現在、オートキャンプ場や海岸維持管理整備、須沢公園全体を気持ちよく使っていただくためにコーディネートしてくださるような存在は、現在おられますでしょうか。

市も後押しすることで、地域の資源を有効に活用する取組が成果を上げておりますが、美山公園に限らず、そのような活動を広めていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

お答えします。

須沢海岸は、新潟県と市によって維持管理をしておりますが、周辺全体をコーディネートするというような団体等は、現在はありません。全国では、海岸協力団体が活動されている事例もございますので、地域資源を生かすためにどのような取組ができるのか、新潟県とも協議してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願いたします。

協議していただくとのことなんですけども、何らかの結論をいつまでにとは申しませんが、有効な活用に向けて、活用の仕方を見いだしていただきたい、このように思います。

それでは、③番についてでございます。商工観光課が力を入れて取り組む事業について、改めて担当課に質問させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

先ほど市長もお答えしたとおり、令和5年度につきましては、広域連携の交流、関係人口の拡大、また、ヒスイの県石指定によります誘客活動が、商工観光課が力を入れてまいりたい事業でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

令和5年度のインバウンド推進事業は、どのように展開されていっていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

インバウンドは、新たな観光需要の一つであります。アフターコロナを見据えまして、日本人観光客を含め、全ての観光客に対する基本的な受入れの体制整備であるWi-Fi整備、多言語化、トイレの洋式化、またキャッシュレス化など、計画的な整備を進めるとともに、今ある観光コンテンツのブラッシュアップに努め、広域で誘客を図ることとしております。

また、北アルプス日本海広域観光連携会議におきましては、台湾、韓国などのアジア圏をターゲットとしました誘客活動を行っておりましたが、令和5年度はインバウンド誘客を再開いたしまして、台湾でのセールスやモニターツアーの実施によりまして、ヒスイはもちろん、雪や自転車を活用した旅行商品の造成によるインバウンド増加を図りたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

昨年度、商工観光課の一部の職員が派遣で観光協会に入られたと思うんですけども、より力を入れて、このインバウンド観光にも力を入れていただきたいと思います、このように思います。

それでは、（2）番の市内まちづくり団体・事業所存続に向けた取組についての①番、どのような影響が出ていると感じているかについてでございます。再質問させていただきます。

先般、開催されたイベントで、携わるスタッフのおよそ1割といってもいいぐらい、市の職員の大勢の方にお力添えをいただきました。感謝申し上げます。

コロナ禍の3年間によって、イベントを担う人材も少なくなってきたと感じております。イベントの運営者と問題提起として、そのような話を伺ったり対応されたことはございますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ご質問の運営者との話合いにつきましては、イベント計画時、また終了時の反省会等によりまして、話す場面はございます。

しかし、踏み込んだ問題につきましては、話合いを行ったことはないというふうに認識しております。

ご指摘の件につきましては、イベント時に関係者等々で確認する機会を設け、状況を把握してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

重ねての質問になってしまうんですが、人材が少なくなっている背景として、主催者の高齢化やモチベーションの低下があると考えます。コロナ禍を機会に、イベントの運営から離れてしまったスタッフも多いかと思います。このような問題は、基本、運営者を取り巻く環境下で解決していかなければならないと思いますが、大きなイベントほど人的問題は今後つきまとうと考えます。糸魚川市にとって交流人口の拡大に欠かせないのは、地域の伝統や物産、名産品を売り込むイベント、交通安全を祈願するイベント等、様々ございますが、今後も人材不足について市は向き合い、変わらず対応していただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ご指摘のように、コロナ禍の自粛によりまして、団体のコミュニティも薄れている部分もあるものと推測しております。各種団体や事業所のイベントの取組は、地域の活性化に寄与するだけではなく、その主催者の思惑によりまして、様々な目的があるのではないかというふうに思っております。

ただ、手伝いを増やしたいというだけではなく、目的に共感していただくことが、まず入り口ではないかなど。後は参加する方々が、そのコミュニティの中でどのような楽しみや使命感を得ることができることが必要ではないかというふうに思っております。市として、主にご協力・ご支援できることは、事業の後援や広報ということになりますので、事業担当課までご相談いただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

お祭りなど伝統行事については、地域が一丸となり形成され、苦しい状況にありながらも次代につながっていきませんが、大きなイベントについては、運営の柱となる人が辞めると決めた時点で終わってしまうと考えます。

糸魚川市には、開催されて25年から30年にも及ぶイベントがありますが、市におかれましては、最後までこのコミュニティと関わっていただき、運営の力になっていただきたいと考えます。よろしく願いいたします。

②番の市内事業所の廃業や倒産防止の対策について、再質問させていただきます。

2018年から始まった創成塾、本年度の開催で6年目の取組となりますが、卒業された塾生から経営について苦しい状況などを耳にします。片や、頑張ってるお店や企業は、予約を取らなけれ

ば入店できない状況のお店もあります。

立地適正化計画では、20年間で、都市機能誘導区域内の創業支援補助金交付件数を70件と掲げておりますが、これら目標数値は、実績として70件をクリアすれば大変素晴らしいことと考えますが、半数が倒産・廃業といった状況になってしまえば、市の投資として不本意であると考えます。

確かに経営者が辞めると決めた時点で、廃業であります。しかし、創業時は夢を持ち、社会に役に立とうという気持ちで創業されたに違いありません。糸魚川市が創業支援をされる意図は、計画にある70件を達成することだけではなく、糸魚川で創業してよかったと思ってもらうことが一番であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

各種計画には、目標達成のために目標数値を明確化しておりますが、ご指摘のとおり、数値目標が達成されたからといって、それで全てよしとは考えておりません。やはりその中身が大事であり、この町で創業してよかった、市民と触れ合えてよかった、生活できてよかったと継続的に事業を続ける意思、続けられる経済的・人的環境づくりも必要と考えております。

当課で実施しております創業塾の大きな目的の1つに、仲間づくり、ネットワークづくりがございます。創業者がお互いに応援し合う仲間がいる。また、市役所や商工団体の企業支援担当者に気楽に相談できる。少しでもそのような環境になるよう努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

創成塾に関しましては、過去にも、卒業後も卒業生に対してケアをしていただいております。これからも隔年でも結構ですので、卒業された塾生に対して、経営に関する下支えや交流会ですとかモチベーションアップにつながる取組をしていただきたい、このように考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほどの答弁のとおり、やはり気楽に相談できる環境というのをこれから築いていきたいというふうに思っておりますので、定期的になるかどうか分かりませんが、アフターフォローのほうは、しっかり企業支援のほうとやっていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋産業部長。〔産業部長 大嶋利幸君登壇〕

○産業部長（大嶋利幸君）

今、創成塾に関わっていただいている講師の先生も、頻繁に糸魚川においてになっておられるケースもございまして、その都度、その創成塾の塾生とは、卒業生であっても今の状況の確認ですとか、悩み事の相談ですとか、そういうことで相談に乗っていただいておりますので、今後ともそういうあらゆる機会を通じて、創業された方のアフターフォローにつきまして対応していければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今後10年、20年と続くような企業、お店を創成していただきたい、その一助を補助していただきたい、このように思います。よろしくお願いいたします。

③番の地域活性化に向けた市の取組について、再質問いたします。

令和5年度の予算編成基本方針の中で、ウィズコロナ・アフターコロナ社会における地域経済への支援とあるが、力を入れていく地域経済への支援策の内容をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

本定例会の予算審査の中でもご説明させていただきますが、市として、コロナ禍ではプレミアム商品券や、今すぐU t a g e（宴）キャンペーンなど、各種給付事業のほうも実施しておりました。令和5年度では、新しいビジネス展開を支援する事業といたしまして、業務効率化や生産性向上を図るDX推進支援事業や中小企業の販路拡大に向けました展示会等出展支援事業、また、外国人材の雇用定着につなげます外国人材雇用支援事業に注力いたしまして、その効果を期待するものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

このコロナ禍において、銀行や信用組合の預金額が大幅に増えていると伺っております。これは、先行き不透明な将来の不安や消費マインドの低下によるものと考えます。商店街の売上げは、徐々に回復してきているようですが、以前のような消費動向に戻るまでには時間がかかると考えます。電子地域通貨などの取組に期待がかかる場所ですが、高齢化が進んでいる状況で地域通貨の浸透をどのように図っていくのか、お考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えをいたします。

現在検討している電子地域通貨につきましては、スマートフォンにアプリを取り込んでいただいて使えるタイプ、それにしても非常に簡易・簡便なものとは考えております。

ただ、やはりおっしゃるように、高齢者の方になるとスマートフォン等、取扱いされない、使われてない方も加盟店、利用者共々おられるかと思っておりますので、そういった方々への対応として今現在検討しているのは、二次元コードをカードにつけたもの、そういったカードタイプでの電子地域通貨の利用というのも検討をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

カードタイプとのことですが、今後、期待しておりますので、頑張っていただきたいと思えます。地域住民所得の向上を目指すならば、売上げの向上が必須であります。

糸魚川市におかれましては、コロナ禍において、地域経済に対して支援を続けていただきました。ありがとうございました。今後の取組に関しましても期待申し上げますし、私自身も推進していきたいと思えます。

それでは、2番目の（1）アスベスト含有建物の解体について、解体工事における懸念事項について、再質問させていただきます。

アスベスト含有建物の解体工事は、通常の解体工事より、どの程度割増しの予算となる見込みなのか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

アスベストに関しましては、その種類ですとか、どこに使われているか、場所などによって解体工法というのが変わってまいります。当然、通常の一般の建築物、使われていない構造物の解体よりは高くなります。また、解体して、アスベストを処分する先も普通の廃材とは違いまして、かなり遠方になります。そうすると、発生する量によっても、もうそれがコストに直結をいたしまして、必ずアスベストのほうが割高になります。

ただ、今の段階で、じゃあ入っていない場合から比べてどれぐらい割増しになるかというところについては、今後、詳細設計の中で調査をして、その上で判定していくべきものだと思いますし、また、その結果につきましても、節目節目のタイミングで議会の皆様、市民の皆様のほうに適切に報告をしてまいりたいと思えます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

解体工事においても、物価の高騰によって解体費が上昇すると考えられますが、今後数年間の解体費用の上昇の見込みが分かれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

これも数値としてはお答えできません。大変申し訳ございません。

ただ、その影響というのは、少なくないというふうに考えております。国は、先月になりますか、公共工事の労務単価というものを、もう上げるよということを公表しております。今日から、3月1日から実施をされております。そういう動きというのが、必ず私どものほうにも及んでくると思いますので、そういうところもございました。あと燃油の高騰ですとか、2024問題という物流関係の上昇という、そういう要因もございますので、そういう動向に注意しつつも、それらをちゃんと適切に設計・積算に反映していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

お話を伺っておりますと、なかなか積算しても当初より高くなったというケースは大いに考えられるというふうに受け止めました。そういった中で、しっかりとやはり議会にも相談していただきたいですし、ルールというところでしっかりと遵守していただいて、予算のほうを計上していただきたい、このように思います。

（2）本町通りにおいて大きなビルの解体施工がされたときに、その解体した建物からネズミなどの動物が発生したことがあると伺いました。旧東北電力ビルに関しても、そのようなことが起こり得ると考えますが、解体の際に対応策はお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

以前、東京の築地市場の解体のときにも大量のネズミが市中に拡散したということが問題になっていました。ただ、そのときに東京都のほうでいろいろ対応したんですが、解体前に事前に駆除を

することの難しさということもいろいろ過去の記事には確認ができます。

ただ、今日、それから時間もたっておりますし、本町通りでの事例をお聞かせいただきましたので、例えばそのときの状況みたいのを周辺の方に聞き取りしながら打てる対策というのを、そういうのがあるのか、ないかも含めまして、講じてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

解体工事の際、近隣地に住まれる住民に、必要に応じて解体期間中の一時引っ越しなどが伴う可能性は、あるのでしょうか。狭窄地に建つ大きな建物の解体は、素人目でも困難を予想できますが、狭窄地における解体施工と建設施工は、通常の施工よりどの程度割増しの費用を予測しているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まずもって、一時的に引っ越し、避難をしていただくような解体工法を採用してはいけないので、騒音とか振動は多少発生するかもしれないですが、ある程度我慢いただけるような、そういう工法を採用しなければならないというのが、まず第一かと思います。

ただ、議員ご指摘のように狭いエリアでやろうとすると、すごくいろんな制約がありまして、採用できる工法というのも限られてまいりますので、これも度々で申し訳ないんですけど、それが幾らぐらいに割増しになるかというのは、今後調査を進めていかないと分からないということなんです。そういう結果についても、これも繰り返しになりますが、市民の皆様、議会の皆様に説明して取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

答弁を聞いておきますと、やはり普通より高くなるんだろうなという予測はされます。その際に、しっかりまた報告いただくということをお約束いただいておりますので、よろしくお願いします。

およそ50年前、旧東北電力ビルを施工する際、隣の建物との間が40センチほどしかなく、矢板が1枚やっと入るスペースで、施工も困難を極めたと、ある市民の方に伺いました。解体に関しても同様のことが言えると考えますが、仮に隣の建物も同時に解体するとした場合、作業効率や安全性、解体費用については、単独で解体するより、少しでも安価にできるものなのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

まずもって、公共工事と民間工事という部分、その差というのをまず1回なくして、本当に仮説的にというふうに考えますと、議員ご指摘のとおりです。作業効率が上がりますし、当然それによりまして、労務の減少ですとか期間というのも、全体通して一個一個やるよりは短縮できるかと思えます。あと作業ヤードというのを共用できたりして、様々な縮減効果もございますし、壊すことがもう分かっていますので、事前の詳細の家屋調査というところを大分省略もできる可能性もございますので、そういう部分ではございますが、ただ、本当にそれが実現できるかという、いろいろな、どういう約束をどう交わすかとかそういう、逆にクリアしていかなきゃいけない仕事というのでも出てまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

予算面についても安全性についても、解体設計を進める中で、近隣の方々と十分に協議していただき、計画していただきたい、このように思います。

○議長（松尾徹郎君）

ここで、暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時01分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

2番の駅北のまちづくりの将来展望についての（1）の②市が所有する宮田ビルについて、再質問させていただきます。

旧東北電力ビルと宮田ビルは、糸魚川市が2020年の12月に取得してから丸2年がたちました。近辺の住民の方々にご意見を伺うと、すぐにでも解体してほしいという意見が聞かれます。宮田ビルは、解体した際、敷地面積はどれくらいあって、どのような活用の可能性が生まれるのか伺

いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

旧宮田ビルにつきましては、先ほど市長答弁でもありましたように、現段階では解体する方向で考えております。敷地面積につきましては約250平米でございます。

また、活用の可能性ということでございますが、状況にもよるんですが、周辺と一体となった活用ができるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

③番に続くことなんですが、その際にも議会にしっかりと報告いただいて、活用の用途を明確にしていただければというふうに思います。

続きまして、（2）番の駅北子育て支援複合施設設置とにぎわいの関連性についての①番、市が考える駅北復興まちづくりにおけるにぎわいとは何かというところで再質問させていただきます。

人口が目減りし、子供の出生も年々減り続ける中、15億円にも及ぶ設備投資は過剰なものだと、ほかに予算を使ってほしいという意見は、多く聞かれます。それは基本計画案から、糸魚川市がどのようなまちづくりを進めたいのか、残念ながらうまく伝わっていないのかなというふうに思います。

しかしながら、生まれてくる子供が少なくなるからこそ、地域の過ごしやすい子育て環境の充実と時代と人口減少に適応した先行投資は、必要であると考えております。子育て世代から要望が多いとされる大きな遊戯スペースと、手狭になったとされる子育て支援施設の複合は、本来マッチングとしてはどうなのか。お母さん支援と子供の支援、すみ分ける必要があると考えますが、このマッチングは実例として成功しているのか検証する必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

子供と子育て世代の支援につきましては、分けるものと、また一緒にすべきものというものがあるといふふうに感じております。

子育て支援センターにつきましては、育児の相談であるとか、支援を受ける場所としてのイメージというものがあまして、利用される方にとっては、少しハードルのように感じるような方もいらっしゃるかというふうに思っております。

そのような中、これまでもアンケート等取中で希望の多かった屋内遊戯施設、こちらのほうを隣り合わせることにによりまして、そういった子育て支援センターに出向く部分のハードルを少し下

げる。心のほうを少し軽くすることによって、施設全体に行きやすい雰囲気生まれ、子育て支援センター本来の機能というの発揮できるかなというふうに思っております。子育て支援施設、また遊戯施設とも、子供同士、親同士、また親子同士ということで、それぞれ使う場面があって、それぞれ機能が発揮できるものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

補足して、お答えをさせていただきます。

教育委員会と話している内容なんですけども、子供の数が減っているからといって何もしないということではなくて、やはり未来を背負う子供たちのために投資をしていかなければならないというふうに考えています。糸魚川で生まれた子供たちが、糸魚川で育ってよかった。また将来、糸魚川で住み続けたい。あるいは住むことはかなわないけども糸魚川とずっと関係を持っていたいと思ってもらえるような流れ。計画している子育て支援複合施設は、このような関わりのスタートとなる施設だというふうに捉えています。

また、核家族化とか少子化で相談できる相手がいなくて悩んでいる子育て世代に寄り添って、時には苦しいと感じられる子育てを、現場での相談などによって楽しいと感じられるような支援をして、愛着形成につなげていきたいというものです。

また、屋内遊戯場は、子育て世代の皆さんからニーズが高いものでありますけども、子供の育ち、あるいは土台というべき部分では、運動というのも大事な要素であります。活発な運動は、好奇心あるいは自己主張、粘り強さなどの育ちや学びを支える力につながっていくものというふうに思っています。

また、多くの子供たちの様子を見る中で、必要な場合は早期の療育体制を取っていくことができますし、子育て中の保護者の皆さんが集う中で、改めて一番大事な生活リズム、こういったものも重要性をしっかりと周知していくことができるものというふうに考えています。

このように保護者の支援と子供たちの生きる力や生活スキルを高める取組を一体的に行うことによって、子ども一貫教育方針に定める18歳での自立、また将来、社会に出たときの力がついて、やはり糸魚川に生まれ育ってよかったと実感できる人材の土台づくりの場としたいというふうに考えています。このような一連の流れを、皆さんからのご理解をいただく中で、施設の整備による町なかのにぎわいをつくっていききたいとも考えております。

なお、多世代交流施設も含めていろいろご意見を頂戴しているところでありますが、施設の内容ですとか運営方法、それから規模の詳細等につきましては、所管となります総務文教常任委員会のほうで、しっかり調査をいただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

子育て支援機能と大きな遊戯施設が、本来の機能が発揮できるこのマッチングで、本来の機能が発揮できるということは説明で分かりました。子育て支援を充実させる手法で住み続けたいくなるまちを目指す糸魚川市の意図は、十分に理解できます。

しかしながら、市民が望む子育て支援は、過剰なハード整備ではなく、お母さん支援、妊産婦支援などの支援を充実させたソフト事業ではないかと私自身考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

妊娠されてから出産、また子育てということで、かなり長い期間の間、保護者、また家族、地域ということに携わる形になります。そういった中で様々な支援が考えられますが、1つは経済的な支援もありますし、様々な悩みを解決する相談支援といった部分も、これまでも市としても取り組んできたところであります。

そういった中でも、こちらのほうの施設整備も併せるような中で、少しでも子育てがしやすい環境、例えば先ほど副市長の言葉の中に人口減少、少子化という言葉がありました。なかなか最近、子育てをする親同士の出会う場と申しますか、接点が少なくなっている事情というのもございます。そういった中で、こちらの施設がそういったつながりの場、悩みを打ち明ける、また子育ての喜びも分かち合えるような場になるということの位置づけというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

②番のほうの質問に移ります。

駅北子育て支援複合施設との差別化についてでございます。

現在、市はキターレや公民館、体育館等において、子育て世代に向けた催しもされておりますが、今後計画される施設においては、しっかりと差別化を図っていただきたいと考えます。言わば、広大な遊戯施設は、キターレや公民館、体育館などでも汎用できると考えますし、既に実証されていると考えます。

平日の日中にキターレよりさらに大きく、週末しか使われないであろう広大なスペースを、駅北に、商店街にもう一つ造る必要はないと考えますが、いかがでしょうか。遊戯施設は、相応のスペースでよいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

様々なご意見を頂戴しております。広いところで思い切りというお声もいただいておりますし、

小さくて目の届く範囲でというような、あと組合せとしても図書との組合せでどうなんだと、いろんなお声を頂いております。ただ、それについても副市長、嶋田課長、答えたような考え方で進めております。

ただ、今の差別化、すみ分けというところは、議員ご指摘のとおりだと思っています。これから、また総務文教常任委員会等で協議いただく複合施設の機能を加味した上で、公民館ですとかキターレ、あと復興住宅にあります交流スペース、もう一個、糸魚川に多くの人を呼んでくるジオパルというところと、連携とか既存施設の役割分担、キターレには大火の伝承という重要な、そこならではの役割もありますし、その辺りをちゃんとこの施設の検討と併せまして、整理・検討する必要というのを再認識したところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

仮に広大な遊戯スペースを設置した際に、近隣の市町村からの利用者を望めるのか。

上越のオーレンプラザを利用している糸魚川在住の子育て世代の動向をどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

私ども、今年度に入りまして子育てをしている方にアンケート調査をしまして、屋内遊戯施設の設置が望まれていることは、先ほど申し上げさせていただいたとおりでございますが、その中でもやはり具体的な名称といたしまして、上越市のオーレンプラザ、また、入善町のわくわくドームといったような施設の具体的な名称も出てきておりまして、そんなような施設を造ってほしいということで、やはり糸魚川市で子育てをされる方で、市外の施設を利用されてる方もいらっしゃるというふうに感じております。

市外を利用する理由といたしましては、やはり例えば買物と併せて行くだとか、あと、糸魚川市でも十分遊び切って、時々市外に出かけるというふうな、それぞれの行動のパターンによるものだというふう考えております。

そういった中で、糸魚川市で同様のような子育て支援複合施設ができるわけですが、もちろん市民の方に使っていただくとともに、例えば帰省されて、糸魚川市にお盆や正月に帰ってこられた方が、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に利用される。また、中には長野県のほうから日本海を見に糸魚川に来た方がちょっと利用される。そんなような利用の形もあってよろしいかというふうに捉えておりまして、どなたでも歓迎という形で、この施設のほうの位置づけということで捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続きまして、地域や市民の皆様にご親しまれ、愛され続ける施設の展望について、再質問させていただきたいと思っております。

基本計画の策定に当たり、令和4年7月、8月の3巡目の懇談会資料では、図書館、学習室の機能について、基本計画には当該機能を含めず検討、整備の必要性を含めた今後の図書館の在り方を予定しており、現段階で新しい図書館、箱を整備することは、時間的・規模的に難しいとありますが、何年後になるか分かりませんが、都市機能誘導施設として候補にもある図書館でございますが、現在計画している駅北以外の別の場所で、新たに図書館の設置面積要件であります1,500平米以上の建物を建てる際に、有効な財源の確保の見込みと令和9年度の子育て支援施設の供用開始時期以降、糸魚川市に、果たしてそのような余裕があるのか伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

財源の確保ということですので、私のほうからお答えさせていただきます。

ただ、図書館につきましては、現時点では計画とか具体的なものが今まだございませんので、今の段階でちょっと何と申していいかというのがあるんですが、仮に建設が必要となった場合、その時点で国や県の動向を注視しまして、可能な限り有効な財源の活用を検討しながら進めることになっていくと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

一番お伺いしたいのは、仮に15億円のその複合施設ができた後に、また同等の額の図書館を造れる余裕と申しますか、そういったものがあるのかというところで、お聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

建設につきましては、財源等、活用のほう、有利なものを活用ということで考えておりますし、また、余裕というお話なんですけど、大体いつも毎年毎年のお話になりますが、ある程度の規模の要求というのは、担当課のほうから上がってまいります。そんな中で、財政的に財源を見ながら、検討しながら予算のほうの配分と申しますか、予算のほうの措置をしましてまいっておりますので、そういったもののスクラップビルドですかね。やめるものはやめる。あとニーズとか、状況を確認しながら進めていくことになると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

かねてより提案させていただいている図書スペースですが、基本計画を見させていただくと、子育て支援施設を軸にプラスアルファされた機能に見えるのですが、多世代の交流スペースとして核施設を設置するならば、広い世代にわたって入館者数が見込める図書館を軸に子育て支援機能を付加させることで、市内外問わず、多くの方に利用されると考えますが、いかがでしょうか。

私は、駅北復興計画の核施設の完成形は、図書館であると思っております。もちろん、子育て支援複合施設の基本計画を完全に否定するわけではありません。

近年、他市町村でも元来の図書館のイメージを覆すコミュニティスペースとしての運用がされており、飲食が可能であったり、時間帯によって使われる世代が違っていたり、子育て支援機能が付加されていたり、どの地域を視察しても、図書館は地域に親しまれながらにぎわいを創出しております。

もちろん、失敗例もあろうかと思えます。空間の演出が大切だと感じております。二次的効果として、近隣にお店や飲食店などの出店が見込めるのは、図書館であると考えます。今後、先細る子供の出生率を考えると、日の利用者の想定が30名の子育て支援複合施設の計画には無理があり、年数の経過とともに運営も困難になってくると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

先ほどからお話していただいております図書スペースについては、前にもお話をさせていただきましたが、最近では、にぎやかで人が寄ってくるような図書館ということで、この施設についても、そのような施設を目指していかなければいけないのかなということで検討させていただき予定しております。

また、議員おっしゃるとおり、図書スペースが設置されることによりまして、にぎわいが生まれるというのは確かだと思っておりますし、また、ただ子育て支援施設と一緒にすることによりまして、また新たなお客様といいますか、利用者の方が増えるかなというふうにも考えておりますので、一緒にやることによりまして、また地域の皆様や市内外の方々がお越しいただいて、親しんでいただけるものというふうにも考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先ほど嶋田課長からの答弁の中で、子育て支援という施設の支援、そこに寄りつくハードルといいますか、そういった部分でも、図書館であれば、そのハードルは乗り越えられるんじゃないかな、

気軽に行けるんじゃないかなというふうに思っております。

最後になりますが、米田市長に質問させていただきたいと思います。

糸魚川市公共施設等総合管理指針は、単純に公共施設等の数量を削減することが目的ではなく、総合管理により、社会情勢の変化に応じた適正配置を進める。マネジメントによる効率的・効果的な管理を行う。長寿命化を図る。財政負担を軽減、平準化することによって、将来にわたり公共サービスを維持し、30年先も持続可能なまちを目指すものとあります。

多世代の市民に喜んでいただくために、社会教育系施設と子育て支援の複合と適正配置により、市民に分かりやすいまちづくりを進めていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり持続可能なまちづくりにおいては、やはり今生きる人たちがこの施設を利用して、将来につながっていける施設にしなくてはいけないわけでありますので、今ある課題をどのように解決していくか、そしてまた将来において、そういったつながって生きていけるような施設をやはり目指すべきだと思っております。

今、我々の課せられた課題については、私も何度も申し上げておるように、駅北大火の復興という部分についてと、そして、また今、少子化の中の課題、また、駅北の大火だけではなくてエリアの活性化も狙いながら、いろんな面でそういった多目的といたしましうか、そういったところを視野に入れながら、つくり上げていかなくちゃいけない部分もあろうかと思っております。1つの事柄だけでは、なかなか完成しなかったり、目的に達せられない部分もあろうかと思うわけですが、そういったいろんな機会を捉えて、そういったことに挑戦、チャレンジしていく中で、市民の皆様方に喜んでいただける施設にもっていきたいと思っております。

少し計画が長くなってきてるので、やはり課題が少しずれる部分もあるのかもしれませんが。

しかし、その辺は軌道修正をしながら、皆さんと会話をしながら、対話をしながら、設置に向かって進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

市長、ありがとうございます。

もう大前提に、やはり地域の皆様に喜んでいただける、そして、市民の多くの世代の方に喜んでいただける施設の設置が望ましいと思っております。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、説明員入替えのため、暫時休憩いたします。再開を30分といたします。

〈午後1時24分 休憩〉

〈午後1時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、ワンストップ窓口（総合窓口）設置に向けた取組について。

ワンストップ窓口（総合窓口）とは、自治体での各種手続における窓口を1つに集約し、手続を完結する取組のことです。

ワンストップ窓口の導入により「出生」や「死亡」、「転出・転入」などのライフイベントごとに複数の部署を回る必要がなくなり、1か所で要件を完結させることができます。

また、デジタル庁の取組として2月6日から行政手続だけでなく、ライフライン（電気・ガス・水道）等の民間手続も含め、引っ越しに伴う手続をオンラインにて一括で行うことを可能とする「引っ越しワンストップサービス」もスタートしました。

今後のデジタル社会の基盤となるマイナンバーカードを活用した取組や、窓口における各種手続の簡素化の取組を推進し、市民サービスが向上することに期待しています。

(1) 当市におけるマイナンバーカードの交付枚数、普及率を伺います。

(2) マイナンバーカードを使った市独自の活用策への取組状況、展望について伺います。

(3) 出生手続に関する総合窓口である「出生ワンストップ窓口」を設置する考えはないか伺います。

(4) 死亡手続に関する総合窓口である「おくやみワンストップ窓口」を設置する考えはないか伺います。

(5) 北海道北見市が独自開発した「窓口支援システム」は、利用者が申請書に手書きすることなく手続ができる「書かない窓口」と、複数の部署をまたぐ手続が1つの窓口で完了するワンストップの窓口サービスを実現しています。市民の利便性向上だけでなく、職員の業務効率改善にも貢献し、現在ではこのシステムを導入する自治体も増えています。当市において